

日本の対アフリカ外交

平成26年3月
外務省 アフリカ部

アフリカの現状：今なぜアフリカか？

(1) 規模を背景とする存在感

- 54カ国(世界の4分の1)を擁する大陸 → 国際社会の大票田
- 面積 3 千万km² (世界の 22%) , 人口 10 億人 (世界の 15%)
- アフリカ連合 (AU) 等の地域経済共同体 (RECs) による統合推進
→ 有望な市場, グローバルな課題への対処に協力が不可欠

(2) 急成長する大陸

- 2000年代以降, 多くの紛争・政治的混乱が解決
→ 開発・成長へ: 年 5.6% の成長率 (アフリカ全体)
- 豊富な資源 (石油・ガス・レアメタル等), 増加する人口
→ 輸出元, 製造拠点としても, 市場としても有望

✓ 新興国の急速な進出
✓ 歴史的パートナーの活発な経済活動 (投資, 貿易)

「機会と希望の大陸」
↳ 政治的・経済的パートナー
↓ 利益を享受しようとする
各国が競い合うフロンティア

一方で……

(3) 多くの課題が集中する大陸

- 紛争・政治的混乱が依然として勃発 → 平和と安定の達成が課題 (南スーダン, 中央アフリカ, ソマリア, 大湖地域, サヘル地域等)
- 深刻な貧困・開発問題, 格差が存続 → 貧困削減, 均衡ある開発が課題 (MDGs 達成の遅れ, 極度の貧困, 感染症, 食糧危機等)
(後発開発途上国 (LDC): 全世界で 48 カ国のうち, アフリカに 33 カ国)

課題の解決は, 成長に不可欠

世界の不安定要因
↓ アフリカの問題の解決は
国際社会全体の課題

日本の対アフリカ外交の意義

アフリカの開発・成長を支え、国際社会のパートナーとしての日アフリカ関係を築く

日本外交の基盤強化: 政治的パートナーとしてのアフリカ

➤ 外交上の諸課題(安保理改革, 地球規模課題, 国際機関選挙等)に取り組むにあたり, 日本の味方・友人を増やす。

資源確保と市場開拓: 経済的パートナーとしてのアフリカ

➤ 資源(鉱物・エネルギー資源)確保
➤ 日本経済の未来の開拓(今後の市場開拓)

問題解決への貢献は、アフリカからの信頼の確保にも直結
問題解決が経済成長を促す。また、経済成長は、問題解決にも資する。

世界の不安定要因の克服への貢献: 国際社会における責務

➤ 国際社会の主要課題への対処により, 日本への信頼獲得
～国際社会の主要メンバーとして当然の責務～

アフリカ開発会議 (Tokyo International Conference on African Development)



TICADとは～対アフリカ外交の基軸

- 1993年に我が国が立ち上げたアフリカ開発をテーマとする首脳級会合。5年に1度開催。
- 我が国が主導し、国連、世銀、UNDP及びアフリカ連合が共催。
- 原則全アフリカ諸国首脳級を招待。
- TICAD V(2013年)には、アフリカ51カ国(首脳級39名)が参加。総参加人数4500名以上。

TICADの特徴

- 長い伝統: 20年の歴史を有し、国際社会のアフリカ開発フォーラムの先駆的存在。
- 包括的かつオープンなフォーラム: アフリカ諸国のみならず、開発に携わる国際機関、ドナー諸国、民間企業、市民社会も参加するマルチの枠組み。
- オーナーシップとパートナーシップの理念を具現化。
- 着実な公約実行: 公約の実施状況を毎年閣僚級会合で確認。

TICADの歩み

◆TICAD(1993年)

冷戦終結後、国際社会のアフリカに対する関心を呼び戻すきっかけを創出。

◆TICAD II(1998年)

優先政策・行動を明記。オーナーシップとパートナーシップの重要性を強調。

◆TICAD III(2003年)

アフリカのオーナーシップを後押し。アジア諸国を含むパートナーシップ拡大に合意。「人間の安全保障」の概念が注目。

◆TICAD IV(2008年)

数値目標設定とフォローアップメカニズム構築。

TICADの外交的意義～アフリカとの関係強化は我が国の国益に直結

1. 日本外交の基盤強化

- 外交上の諸課題(安保理改革, オリンピック招致, 国際機関選挙等)に取り組むにあたり、アフリカ各国からの支持・協力は不可欠。

2. 資源確保と市場開拓

- 豊富な資源、急激な経済成長を遂げるアフリカは、我が国民間企業も高い関心。中、印等の新興国も注目、進出を強めている。
- 世界経済にとって新たな成長源としての潜在性。

3. 国際社会における責務と信頼獲得

- 課題が集中するアフリカの問題に対処することは、国際社会の主要なメンバーである我が国の当然の責務。
- 国際社会からの信頼を獲得する上でも重要。

4. 国際社会における発言力強化

- 国際社会の主要な開発議論をリード(例: ポストMDGs, 人間の安全保障等)。
- (例) TICADVでの議論を直後のG8英サミットにつなげつつ、対アフリカ支援のリーダーシップを発揮。

第5回アフリカ開発会議(TICAD V)の成果

2013年6月1日～3日(横浜市、パシフィコ横浜)



全体テーマ:「躍動のアフリカと手を携えて」(Hand in Hand with a More Dynamic Africa)

参加者

参加総数は、**過去最大の4500名**以上

全ての共催者の長(国連、アフリカ連合委員会、世銀、UNDP)が参加

安倍総理は、**全てのアフリカ首脳**を含む56名と会談。岸田外務大臣は32名と会談。

| アフリカ諸国 | ドナー・アジア諸国 | 国際機関 | 民間企業・市民社会 |
|---------------------|-----------|------|-----------|
| 51ヶ国(首脳級39名) | 31ヶ国 | 72機関 | 70団体以上 |



会合の成果

- ▶ 成果文書として、「**横浜宣言2013**」、「**横浜行動計画2013-2017**」を採択。
- ▶ 日本から、**ODA約1.4兆円を含む官民による最大約3.2兆円の取組**を含む**アフリカ支援パッケージを発表**。特に日本企業の要望の強い、**インフラ整備と人材育成**を重視。アフリカ側から高い評価を得た。

【議論のポイント】

1. 「**強固で持続可能な経済**」、「**包摂的で強靱な社会**」、「**平和と安定**」に基づく、「**質の高い成長**」を提唱。
2. アフリカを、「**ビジネス・パートナー**」と位置づけ、**官民連携(PPP)**による**貿易・投資の促進**を通じ、アフリカの成長を支えていくとの認識を共有。
3. アフリカ首脳と日本経済界の対話の場を設け、**アフリカ首脳に直接、自由で安全な投資環境の整備を要請**。
4. 現下のアフリカが抱える喫緊の課題として、**サヘル地域の安定化(テーマ別会合)**、**ソマリアの国づくり(ソマリア特別会合)**を議論。平和と安定を実現するための方途を示した。
5. 市民社会の参加を得つつ、アフリカの成長の恩恵を広く行きわたらせる方途を議論。特に、**ポスト2015年開発目標のあり方について、重点的な議論**を行った。

TICADVの主な支援策



基本方針

(注)行動計画の項目に沿って記載

- ▶ 民間の貿易投資を促進し、アフリカの成長を後押しする(インフラ、人材育成等)
 - ▶ 日本らしい支援を通じ、「人間の安全保障」を推進する(農業、保健、教育、平和と安定等)
- 今後5年間で**ODA約1.4兆円(140億ドル)**を含む**最大約3.2兆円(320億ドル)**の官民の取組でアフリカの成長を支援。

I. 経済成長の促進(民間セクター、貿易投資、資源)

(1) 貿易・投資

- ◆ NEXIの**最大20億ドル**の貿易・投資保険枠
- ◆ 投資アドバイザーを**10カ国**に派遣
- ◆ 投資協定の締結促進
- ◆ **20カ国**、**300人**にワンストップ国境通関(OSBP)システムを普及、貿易円滑化のための人材育成

(2) 民間セクター

- ◆ アフリカ開発銀行との協調融資(EPISA)**5億ドル**の支援を含む民間セクター支援

(3) 資源

- ◆ JOGMECによる**20億ドル**のリスクマネー供給
- ◆ 資源分野**1,000人**の人材育成

II. インフラ整備・能力強化の促進(インフラ、人材育成、科学技術、観光)

(1) インフラ整備

- ◆ **約6,500億円(65億ドル)**の公的資金を投入
- ◆ **5大成長回廊**整備支援
- ◆ 都市計画／交通網／インフラ整備のための戦略的マスタープランを**10カ所**において策定

(2) 人材育成

- ◆ 産業人材を**3万人**育成
 - ◆ TICAD産業人材育成センターを**10カ所(25カ国)**を対象)設立
 - ◆ 「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(安倍イニシアティブ)」
(**African Business Education Initiative for Youth (ABE Initiative)**) (注1)を立ち上げ、**1,000人**を日本に招聘
- (注1) 官民連携で日アフリカ・ビジネスの将来を担う若手の優秀なアフリカ人材を選抜し、日本の大学への留学と日本企業でのインターン経験の機会を供与し、又、卒業生間のネットワーク構築をはかるもの

(3) 科学技術

- ◆ 汎アフリカ大学、日エジプト科学大学等研究機関・大学への技術協力

(4) 観光

- ◆ 外務省やJATA等による観光フェアを**10回開催**
- ◆ 観光分野**700人**の人材育成

TICADVの主な支援策



III. 農業従事者を成長の主人公に(農業、食料・栄養安全保障)

- 2018年までにサブサハラ・アフリカでのコメ生産を**2,800万トン**に増加
(アフリカ稲作振興のための共同体(CARD)の取組みを継続)
- 自給自足から儲かる農業への転換(SHEPアプローチ^(注2))を**10カ国**で展開。技術指導者**1,000人**の人材育成、**5万人**の小農組織を育成
(注2)小規模園芸農家に対して、農家自身が市場調査に参加して売れる作物を選定する研修等を通じて、農家の所得増加を支援する取組

IV. 持続可能かつ強靱な成長の促進(環境・気候変動・防災)

- TREESイニシアティブ^(注3)による森林減少面積の削減(**34カ国**を対象)
(注3)森林・自然環境の管理を通じて、生物多様性保全と地域活性化の両立を目指す取組
- **2,000億円(20億ドル)**の低炭素エネルギー支援 ■ 二国間オフセット・クレジット制度の促進
- アフリカ島嶼国を中心とした防災支援

V. 万人が成長の恩恵を受ける成長の促進(教育・ジェンダー、保健、水・衛生)

(1) 教育・ジェンダー

新たに**2,000万人**の子供に対して、質の高い教育環境を提供

- 理数科教育の拡充 ■ 「みんなの学校」プロジェクト^(注4)を拡充
- 日アフリカ・ビジネスウーマン交流プログラム^(注5)の立ち上げ

(注4) 民主的に選出した住民代表による学校運営改善の取組

(注5) アフリカのビジネス女性とジェンダー担当行政官を招へいし、横浜市等の地方自治体等で研修・意見交換を実施

(2) 保健

- **500億円(5億ドル)**の支援、**12万人**の人材育成を実施
- ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)^(注6)の推進や栄養改善のための協力を強化

(注6) 全ての人々が基礎的保健医療サービスを受けることが可能な状況

(3) 水・衛生

1,000万人に対する安全な水へのアクセス及び衛生改善



VI. 平和と安定、民主主義、グッドガバナンスの定着

テロ対策・海賊対策

- 北アフリカやサヘル地域におけるテロ対処能力向上のために、**2,000人**の人材育成及び機材供与等の支援
- サヘル地域向け開発・人道支援**1,000億円(10億ドル)**で地域の安定化に貢献
- ソマリア沖の海上安全確保を支援
 - －自衛隊、海上保安庁による海賊対処行動
 - －ソマリア周辺国の海上保安組織の法執行能力強化等(巡視船供与を含む)

ガバナンス

- APRM(African Peer Review Mechanism)^(注6)支援等グッドガバナンス推進のための支援を少なくとも**30カ国**で実施^(注6)アフリカ各国が、政治、経済、民間企業活動におけるガバナンスについて相互に評価し、経験を共有し合うためのメカニズム
- 司法, メディア, 地方自治, 治安維持等の分野で**5,000人**の行政官を育成。

アフリカ自身の取り組み強化

- AU/RECs(地域共同体)のイニシアティブの実行力向上を支援
 - －AU/RECsの活動のための基金への拠出等(最初の取組:AFISMA基金に600万ドル拠出)
- PKO訓練センターへの支援等を通じ、**3,000人**の平和構築にかかる人材育成を実施

平和構築／平和の定着

- サハラの内帯及び大湖地域を重点地域とし、平和の定着支援を継続(最初の取組:約5.5億ドルの支援)
 - －ジェンダーの視点を重視
 - －ガバナンス支援等を通じた国家・コミュニティの再建支援
- 国連PKO活動に対する支援を継続(要員の派遣等)

安倍総理のアフリカ訪問（2014年1月10日～14日）

訪問の背景

◆ 第五回アフリカ開発会議（2013年6月）で、総理から**早期のアフリカ訪問を約束**

「地球儀を俯瞰する外交」の下、8年振りの総理の本格的なアフリカ訪問として
コートジボワール、モザンビーク、エチオピア(含:AU本部)を訪問。
コートジボワールでは、同国に集まった**西アフリカ10か国の首脳**とも会合。



アフリカ訪問全体の成果

- ◆ **パートナーとしての日本の魅力発信**: 政策スピーチ(於: AU本部)で、「一人、ひとり」を大切にする日本の支援や企業の投資・組織文化はアフリカの成長に貢献するとして、日本こそアフリカが選ぶべきパートナーと訴え、加えて若者と女性のエンパワーメントを重視する旨表明した。また計13か国の首脳と会談し、アフリカでの日本の存在感を強化。
- ◆ **トップセールスの推進**: 同行した延べ33の企業等代表の首脳への紹介等、トップセールスを推進。モザンビークとの経済、学術協力や日・エチオピア航空協定改正議定書など、政府・民間で計14件の文書に署名。
- ◆ **平和と安定への貢献**: 「積極的平和主義」に基づき、南スーダン、サヘル地域、中央アフリカを含む紛争等への対応のため、3.2億ドルの支援の用意を表明。また、アフリカ開発銀行との協調融資額の倍増(5年で20億ドル)を表明。
- ◆ **重層的な関係強化**: 各国で2020年東京五輪に向けスポーツ行事を実施。総理夫人はファーストレディー外交を展開。

【政策スピーチの主要点】

- ✓ アフリカが発展・成長を続けるために、日本ならではの貢献として何ができるか？
 - 日本の伝統: 人材は最も貴重な資源。「一人、ひとり」の創意と工夫を大切にしてきた。(例:「カイゼン」)
 - そのような思想を、投資とともにもたらす日本企業は、必ずアフリカの人材育成に貢献する。
 - 日本及び日本企業との関係強化は、アフリカの持続的な成長に繋がる。
- ✓ アフリカの未来に向けた日本外交の機軸: 「若者と女性が輝くアフリカ」への最大限の協力を表明。
 - 若者への職業訓練の推進: TICAD産業人材育成センター第1号をエチオピアで始動。
 - ビジネスの将来を担う若手の育成: 日本の大学・企業で学んでもらう「ABEイニシアティブ」の着実な実施。
 - 女性への支援の推進: 教育、農業、保健分野への支援等。
- ✓ AUとの協力推進: アフリカを牽引するAUの努力を後押しし、またAU委員会に「カイゼン」支援を行うこと等を表明。 9

安倍総理のアフリカ訪問（2014年1月10日～14日）

訪問各国別の成果

コートジボワール（1月10-11日）

- **日本企業進出の布石**：紛争から復活し年10%近い成長を実現する同国は、「西アフリカの玄関口」として日本企業の潜在的進出拠点。同国に対して、日本企業進出も見据え、インフラ、産業・人材育成、投資促進等の協力を本格化することを表明。また、企業等の代表を大統領に紹介。
- **西アフリカとの関係強化**：総理訪問にあわせ周辺10か国首脳が集結。11名の首脳と、インフラや人材育成等、15か国・3億人の統合が進む西アフリカが魅力的な地域となり民間投資を呼び込むためのビジョンを議論。
- **重層的な関係強化**：スポーツ関連行事（首脳間でのサッカー代表ユニフォーム交換、柔道「安倍杯」）や女性職業訓練施設視察を実施。また、総理夫人は孤児院視察等を視察。

モザンビーク（1月11-13日）

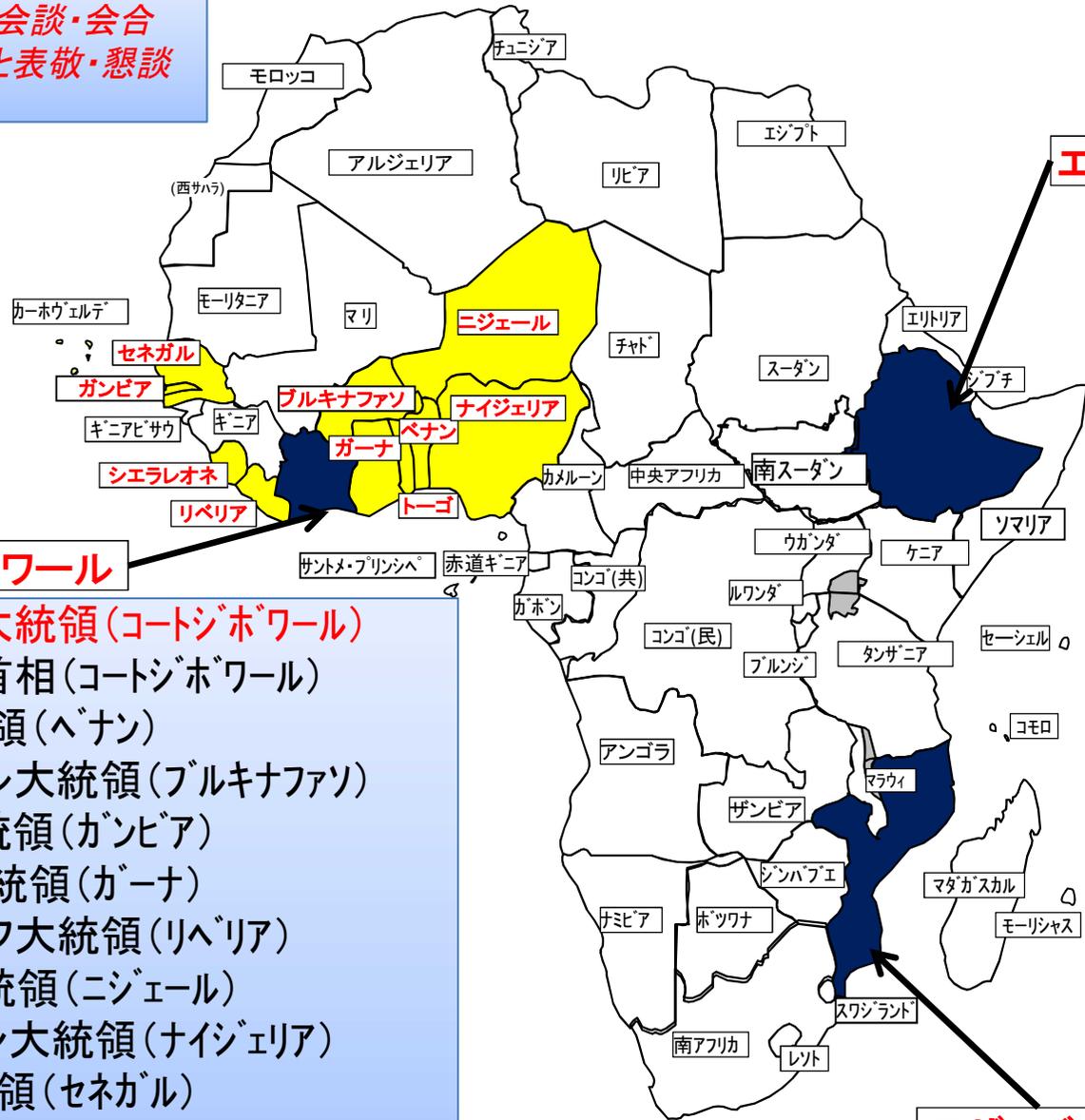
- **互恵的な「友情（AMIZADE：アミザーデ）」パートナーシップ構築**：日本企業も深く参画する天然ガス・石炭の開発や、資源を活かした産業振興にあたり、同国の持続的成長や国民生活向上に日本政府が適切に関与し、官民連携でアフリカ進出への拠点を確保することを目指すもの。具体的には、ハイレベル政策対話の立ち上げ等に合意し、今後5年で300人の人材育成や約700億円の支援を柱とする「日モザンビーク相互成長支援パッケージ」を表明。
- **投資促進・円滑化**：投資フォーラムを開催。企業間協力文書の署名、投資環境整備への双方の努力を確認。
- **重層的な関係強化**：大学間協力文書の署名、スポーツ交流（2020年東京五輪に向けた女子バスケットボール選手との交流）を実施。また、総理夫人が、農業や社会福祉の現場を視察。

エチオピア（1月13-14日）

- **「日本らしさ」の発信**：AU本部を擁する「アフリカ政治の首都」である同国での政策スピーチを通じ、アフリカの成長に向けたパートナーとしての日本の魅力を訴えた。
- **エチオピアとの直結・交流強化**：成田空港への直行便就航を可能とする二国間航空協定改正議定書に署名。また、「カイゼン」等の日本の支援に謝意が示されると共に、両国間のビジネス関係増進を確認。
- **南スーダン情勢**：エチオピアが主導する周辺国の仲介努力への支持を表明、連携を確認。
- **重層的な関係強化**：故アベベ選手の子息等と懇談。総理夫人は大学への図書寄贈や社会福祉視察を訪問。

アフリカ訪問時に安倍総理が会った首脳

13名の首脳と会談・会合
3名の首脳等と表敬・懇談



エチオピア

- ・ **ハイレマリアム首相** (エチオピア)
- ・ **ムラトゥ大統領** (エチオピア)
- ・ **ドラミニ=ズマ委員長** (アフリカ連合委員会)

コートジボワール

- ・ **ウワタラ大統領** (コートジボワール)
- ・ **ダンカン首相** (コートジボワール)
- ・ **ヤイ大統領** (ベナン)
- ・ **コンパオレ大統領** (ブルキナファソ)
- ・ **ジャメ大統領** (ガンビア)
- ・ **マハマ大統領** (ガーナ)
- ・ **サーリーフ大統領** (リベリア)
- ・ **イスフ大統領** (ニジェール)
- ・ **ジョナサン大統領** (ナイジェリア)
- ・ **サル大統領** (セネガル)
- ・ **コロマ大統領** (シエラレオネ)
- ・ **ニヤシンベ大統領** (トーゴ)

モザンビーク

- ・ **ゲブーザ大統領** (モザンビーク)